

## 『 大所高所から見る先見性とは 』

### 参加者の声

- 「先見性」とは受動的に「先を見る」のではなく、能動的に「先を読む」。この言葉がとても響きました。
- 「1つ1つの細かいことではなくて全体を見渡すこと」というお話に、会社の全体を本当に全て見られているのだろうか、あらためて今の自分を考えさせていただきました。
- 先生が言われていました、社員自らが早くから入社をして遅くまで会社にいるような社員にとって居心地の良い会社に来るようになれば、お客様に対しても居心地の良い空間を提供することが出来てより会社も発展すると思いました。
- 今の自分に足りていないのは自らが何事においても積極的に求めて行動をしていないことであり、自分自身の仕事に関してもまったく先見性を読むことなく行動していたのだとあらためて実感いたしました。
- とにかく実行すべき事は、先生の仰った『脚下照覧』。常に自分の足元を見て、【見直し】【聞きなおし】【言い直し】何事も自らが積極的に求めて学び、先を読む力を、養って行く事だと思いました。
- 人の本質は何か。互いに支えあうことこそが、人の本質である。これが変わらぬ真実である。だから、Nさんの事業は、「市皆家族プロジェクト」で、市民全員を家族だと思って事業をされればいいですとのときには「凄いことをおっしゃる！」と思いました。変わらぬ真実を根底に自社の本質を突き詰めてゆくということは、こういう考え方まで至るのかと驚きました。
- 自分を振り返りますと、傍観者として受け身として先を見る事はあっても、主役として自ら先を読むという姿勢になっていなかった事に気付かせて頂きました。漫然と過ごしている毎日では、先を読む姿勢にもならず、現状把握さえ出来ない事も知り、まずは傍観者態度を切替え、当事者としての姿勢、態度に変えていきます。
- 自分では積極的に取り組んでいるつもりでも、いつの間にか受け身になっている。本来とは真逆のことをおこなっていたようにも思いました。先生から「先見性とは何か？」と質問された時に「頭で考えてるようではダメだ」と思いました。
- 自分が考えていた先見性は「先を見て、先手を打っていくもの」と答えました。しかし先生より「先を見るは受け身になる」「先を読むのだ」と言われて、ハッと自分は受け身になっていると思いました。
- 秒進分歩の世の中、やはり人の本質である「支えあう」「人のぬくもり」や「人の暖かさ」こ

れから世の中が発展するには、我々経営者が、どれだけ大きな気持ちで人々を包んであげられるのか、事業としてそれを行えるのかにヒントがあるように思いました。

- 「何事も自ら求めて志をもって積極的に」を基本に目で物を見るのではなく、心で見る訓練を意識して行います。情報は全員に与えられます。しかし、受け取る側の感性や思慮深さ、何事にも真剣な素直な心が情報を有効にし、また会社や人生の宝物になって行くと感じました。時間も同じことが言えるのではないかと感じました。
- 大所高所のお話は、漠然と「経営者としての物の見方」であるのかなと考えておりました。しかし、先生のお話を拝聴して行くにつれ、その場その場での一過性の言葉の重要性を身にしみ、自分が日々口に出してしまっている狭小的発言等を省みました。
- 「電波の入っている情報は簡素で、書物から得られる情報はじっくり考える力が付く」私は書物に関して、基本的に一つの本を徹底的に読み込むようにして、現実に行っている事に照らし合わせて時間をかけて読むことが多いと思います。自分がその時に何を求め、何のヒントが欲しいか、その時の思いの強さで集中力も違っていたように思います。集中力と考える力はとても似ているように感じますが、次回先生にお伺いしたい項目の一つです。
- 「受動ではなく、能動的に」。これは簡単なようで、すごく難しいとことだと感じました。これまで、子供の頃より何度となく言われてきたことでしたが、つい忘れてしまい、目の前の問題を意識しすぎ、自分の前に壁ができてはじめて動き出していることに気がつきました。
- 「腹が据わっている」知っているようで全く理解していなかったことだと気がつきました。腹が据わるにはしっかりと自分の芯が必要で、芯を作るにはしっかりと目標が必要だと感じました。ただ芯と身勝手は全くの別物で、自分が間違っていたり、疑問が出たときには「見直し、聞き直し、言い直し」をしっかりと、自分自身を修正させることにより、さらに芯が確かなものになると思いました。このセミナーで気がついたことを、習慣づけるよう、自分に言い聞かせたいです。
- 「先見性」、これほど経営に重要なキーワードについて、何も具体性を持って考えてない自分を、まず自覚させられ、現状の自分に強い危機感を抱きました。
- ムバラク大統領の演説が、退陣の最後の一押しとなった。経営にしんどさを感じる時など、つい社員の前で、弱音やネガティブな発言を出してしまう事があります。自分の言葉の重みは、他とは違う事を改めて意識しました。
- 『知りたがり屋が多い。自分の会社の本質は何か。』 自分や自分の会社が、何をしてお客様、特に今までのお客様に貢献できるのか？その為にも、自らの価値、本質に基づいた行動が大切であり、多くの知識を得て、表面的な理論武装をしても意味がないと考えました。
- 『腹が据わっているか、役職・肩書きで生きない』 自信を習慣づけ、覚悟を決めること。ずっと自覚している最大の課題です。言葉よりも、藤原先生のように腹が据わった存在になる事が、一つの人生のテーマです。